

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	3年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施 22日実施)	総合評価(月日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現のための精選された教育課程の運用 相互交流が可能な教育課程の設定 主体的な学習習慣の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒のニーズに沿った選択が可能となる選択科目の精選を検討する。 ②複数学科設置のメリットを生かした教育課程を運用する。 ③主体的な学習習慣を醸成させるための方策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①系別のクラス編成を念頭に置き、学年の学習支援担当を中心に、生徒のニーズに対応した選択科目の精選と選択組み合わせのパターンを作成する。 ②両学科の生徒が共通に履修できる選択科目を円滑に展開する。 ③生徒が主体的に学習習慣を身につけ、積極的に学習に向かうよう、教科を中心に具体策を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒のニーズに対応した選択科目の精選と組み合わせのパターンを作成することができたか。 ②円滑に展開し、生徒の学習ニーズに応えることができたか。 ③各教科に対し、生徒の主体的な学習習慣等を身につけるための具体策を立てることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の進路実現に沿った選択科目の精選及び選択パターンを提示することができた。また、新規の選択科目を設置することで次年度からの選択の幅を広げることが可能になった。 ②美術科目の自由選択科目を設置し、両科の生徒がニーズにあわせて選択することができた。 ③教科を越えた授業研究期間を設け、互いの授業見学を通して授業改善に役立った。また、生徒による授業評価を参考に、生徒に学習習慣を付けさせる策を各教科で検討するよう呼びかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①新学習指導要領について研究を始める必要がある。 ②普通科生徒にも美術科目を学びたいというニーズがあるので、美術科自由選択科目の人数をより増やすような方策を検討したい。 ③教科横断的な授業展開も視野に入れ、互いの授業改善を積極的に行うような、教員の意識付けが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を習慣づけるため、各教科から、課題を課してほしい。(PTA) 選択科目の履修条件について、詳しい説明が欲しい。(PTA) 美術科・普通科がともに学べる自由選択科目が2年目を迎え、異年齢集団による学習活動が始まる。この学習活動を円滑に進めることで、美術科・普通科の融合した教育活動の礎とする。 新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路実現に向けて有効な選択科目の精選と組み合わせのパターンを作成することはできたが、進路意識の低い生徒への対応が課題として残された。 自由選択科目や行事などで美術科と普通科の相互乗り入れ、融和を図ることはできた。今後も普通科・美術科複数学科の設置校として教育効果の向上にむけて努力する。 授業改善に向けた教科横断的な授業見学、研修会などを実施できた。今後は、新学習指導要領を見据えつつ、教員の授業改善意識を向上させるための研修会・体制作りが必要である。 	

2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 安全、安心の教育の推進 支援教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> 主体的な生徒会活動への支援 環境美化活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①規範意識や交通安全および防犯意識等を向上させる。 ②生徒指導と教育相談が有機的に連携した体制をつくる。 ③校内外の行事において生徒会役員を中心とした主体的な活動を活発にする。 ④生徒の環境美化意識を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①頭髪、服装、遅刻、交通安全等の指導を学校全体で統一して行う。 ②集団指導と個別指導を適切に行う。 ③学校行事等の企画に生徒が主体的に取り組めるよう、教員が密に関わって支援する。 ④生徒の主体的な環境美化活動を支援する。作品展等々の活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校全体で統一した指導ができ、規範意識防犯意識等が向上したか。 ②生徒指導と教育相談が連携できたか。 ③主体的な生徒会活動を支援することができたか。 ④生徒の環境美化意識が向上したか。主体的な展示活動がみられたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①頭髪、服装、遅刻指導については学校全体で統一指導ができた。 ②生徒を支援する体制が充実してきた。 ③文化祭・体育祭など校内行事では生徒会役員が中心となり主体的に運営することができた。 ④階段アートの取り組みにより校内環境を明るくすることができた。環境美化委員を中心に校内美化活動に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①防犯意識、交通安全意識を向上させるために全校集会、LHR等で注意喚起してきたが、生徒の意識はまだ不十分である。どのように高めてゆくか、今後の課題である。 ②より細やかな生徒支援に向けた環境整備、情報交換を目指す。 ③今後も、規律を守りつつ自主性を発揮するよう指導していきたい。 ④学科再編に伴う学習環境の変化に対応した校内美化を検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導のためにもSNSに関する研修が必要(学校評議員) 生徒指導上の効果を上げるためだけではなく、現代の生徒には、以前にもまして、生徒の精神的な部分へのアプローチが必要(学校評議員) 行事や学級活動・部活動などを通して、良好な人間関係が気づけるよう一層の指導を望みたい。(学校評議員) 文化祭後に閉矢祭を実施したのは意欲的な取り組みだったと思う。(PTA) 学校行事の際、バスの増発や、駅から学校までの道案内などができるとよい。(PTA) <ul style="list-style-type: none"> 美術科の階段アートのような作業に普通科の生徒も参加できないか。(PTA) 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が基本的な生活習慣を守って学校生活を送っている。 定期的な教育相談会議の実施により支援を必要とする生徒の把握、その情報の共有化を図るための「生徒の情報共有会議」を各学期始めに開催することで教職員が共通した意識で教育活動に当たることができた。 多様化する情報ツールに対して、学校教育がどのように向き合うべきか、校内生徒指導研修会でも話題として話し合ったが、統一見解には至らなかった。 文化祭・体育祭などでは生徒の主体的な活動がみられるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 一斉指導の下では指導に従えない生徒への対応には、教育支援的な指導が必要であることを踏まえ、生徒指導・教育支援のさらなる連携を目指す。 教育相談会議の充実を図るため、平成30年度に情報共有シートの改善を図った。このシートの有効活用により、より細やかな教育相談活動、ひいては生活支援活動を目指す。 情報モラルについての教育活動は、1年時の講演会、授業「社会と情報」で行っているが、日々変化する情報社会への対応は、日々の教育活動の中でも行う必要がある。各教科指導の中でも、情報モラルを意識した教育活動が必要である。 生徒の主体的な活動、美術科と普通科の合同作業を支援する教育活動を検討する。
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 多角的な視点を持ったキャリア教育の展開 生徒・保護者への情報提供機会の増加と相談体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ①総合的な学習の時間における課題研究の内容をさらに向上させる。 ②低学年から高学年まで進路ガイダンスを充実させ、情報提供の内容を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①将来の在り方生き方につながるような課題設定と、研究から成果の発表までの指導を行う。 ②個々の生徒及び保護者へのきめ細かな情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①課題設定から表まで、すべての生徒が取り組めたか。 ②生徒及び保護者のニーズに応じた情報提供ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①総合的な学習の時間において、自己再発見など様々な課題に取り組み、発表まで取り組むことができた。 ②各学年での進路ガイダンスを多数実施し、また進路希望別説明会を実施することで、情報提供を行うことができた。 ・新入試制度への対応のため職員対象の研修会を実施した 	<ul style="list-style-type: none"> ①自らの在り方生き方を考えさせる方法・手段の職員全体での共有化がまだ不十分。 ②進路希望が明確でない生徒に対する指導方法について、担任との協力体制を検討する必要がある。 ・新入試制度への対応を考えたキャリア教育の検討及び実践。 	<ul style="list-style-type: none"> 3 学年は面談の時期を早められないか。(PTA) 進路指導上、保護者として子供にどのように接するべきかを学ぶ機会が欲しい。(PTA) 18才成人も視野に入れた、社会生活を意識させるガイダンスを進めてほしい。(学校評議員) 	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスの実施や総合的な学習の時間における指導で、生徒の進路意識は高まっている。 保護者面談時や保護者対象の進路説明会で、保護者への進路情報提供を行っているが、その満足度はまだまだ低い。 新制度入試や18歳成人という新しい時代への対応を視野に入れた教育活動が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスや総合的な学習の時間を使ったキャリア教育は目標をほぼ、達成するところまで行われている。今後は、新入試制度の動向も見据えながら、キャリア教育グループが主催するキャリア教育という視点ではなく、学校教育全体が、「将来の在り方生き方につながるような課題設定と、研究から成果の発表までの指導」を意識した教育活動を行う必要がある。

4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携し、新しい学科や学校の特色の浸透を図るとともに生徒の社会性を育成 ・地域との協働による幅の広い教育活動の展開 	<p>①新しく設置された美術科や活発な部活動・盛り上がる学校行事・1年次から自由選択科目を置くカリキュラムなど学校の魅力や特色を中学生や地域・保護者に浸透させる。</p> <p>②外部と連携した活動により生徒の社会性を高める。</p>	<p>①学校説明会の日程や回数、説明内容を改善する。学校案内の内容を工夫するとともにHPの充実を図る。</p> <p>②地域での行事や外部講師を活用する。</p>	<p>①学校説明会のアンケートで「参考になった」の回答数が8割以上を維持できたか。</p> <p>②行事や講演会での生徒の満足度が9割以上を維持できたか。</p>	<p>①学校説明会でのアンケート結果は目標を満足している。回数が多いため、準備期間が重なり混乱のおそれがある。</p> <p>②美術科特別授業では外部講師を招いて美術と社会のかかわりなどについて学ばせた。</p>	<p>①来年度は、効率的な運営を行うため、学校説明会・アートスクールの同日実施とする。</p> <p>②授業後のアンケートでは多くの生徒が外部講師による授業に満足感を示している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA主催の陶芸教室は、地域の方と一緒に楽しめた（PTA） ・学校が行っている外部も参加できる活動をもっとPRするとよい。（PTA） ・学校主催の地域貢献デーの時間と場所について、自治会活動との調整の円滑化を望みたい（学校評議員） ・今後も町内会主催の盆踊りや文化祭などへの高校生の参加を望む。（学校評議員） ・地域貢献デーの清掃活動には感謝している。（学校評議員） ・学校の地域と連携した活動をHPなどで発信したほうが良い。（学校評議員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会では、新しく設置された美術科の教育活動が美術科にとどまらず、本校学校教育への新しい息吹となることを伝えることができた。 ・美術科では外部講師による特別授業や地域の施設を利用した授業を行って、地域の教育力を活用するとともに、地域の子供たちに陶芸を教える機会やPTA活動と連携した陶芸教室を実施するなど、地域への発信活動を行ってきた。こうした活動を普通科でも行いたい。 ・地域貢献デーの活動に事前学習を取り入れることで、学校と地域との関係について、生徒の意識に訴えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術科設置を広める学校説明会は、その役割を終えた。今後は、普通科・美術科が一体となって学校の教育活動を伝えられる説明会を実施する。 ・美術科が企画する地域の教育力を活用した教育活動に普通科の生徒が参加できる機会を増やすことはもちろん、普通科の教育活動においても地域との連携を利用した教育活動の実現を図る。 ・30年度は社会人聴講生が自由選択科目に参加する予定である。地域と学校をつなげる機会にしたい。 ・学校が行っている外部も参加できる教育活動の情報提供の充実を目指す。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の共通理解のもと人権に配慮した生徒への対応を実践 ・安全・安心学校生活を送ることができる校内環境の整備 	<p>①様々な組織における職員の人権意識を向上させる。</p> <p>②教員・生徒の防災意識を高める。</p>	<p>①職員組織での人権をテーマとした話し合い、研修の機会を設定する。</p> <p>②災害図上訓練の研修会を教員・生徒対象に開催する。</p>	<p>①人権をテーマにした話し合いの機会を設定し、職員の人権意識を向上できたか。</p> <p>②訓練の実施により防災意識が向上したか。</p>	<p>①生徒の人権にかかわる研修会を実施して、少人数による話し合いの場面を作った。</p> <p>②災害図上訓練の研修会を教員・生徒対象に開催し、教職員48名、生徒7名が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別収集を効率的に行うために、缶・ビン・ペットボトル用のごみ箱を設置した。 	<p>①人権を意識した指導方法を考えることができた。今後は、その実践を図りたい。</p> <p>②今後は教員が指導し実施できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分別廃棄の習慣を生徒につける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より、清掃が行き届いている。（PTA） ・防災器具の活用を含め、防災訓練の充実を望む。（学校評議員） ・災害図上訓練の効果は上がったか。（学校評議員） ・省エネ、リサイクルの観点からもごみの分別は進めるべきである。（学校評議員） ・人権意識の醸成のために、研修会に加え、日々の学習の中でも触れるようお願いしたい。（学校評議員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会において「合意的配慮」の必要性の学習を踏まえ、ひとり一人の生徒の人権を意識しながら教育活動を行う必要があることを多くの教員が学んだ。 ・災害訓練の実施を通して多くの生徒に防災意識の向上がみられた。 ・教室のごみ分別の効率化を図るために、缶・ビン・ペットボトル用のごみ箱を設置して、「燃えるゴミ」「プラスチックゴミ」「缶・ビン・ペットボトル」3種類のゴミ分別を図った 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ人権意識を教育活動にどのように生かしてゆくべきかを考えてゆく必要がある。そのために必要なのは、より実践的、現実的な研修活動によって、人権意識の必要性を実感できるような研修活動が必要である。 ・3.11以来、防災教育や防災体制の充実の必要性は事あるごとに喧伝され、学校現場でも意識している。だが、その意識レベルは、個人差が大きい。7. 明日、あるいは今、起きたときに、災害にどう向き合うのかという意識を持つために、災害訓練を行う必要がある。 ・ごみの分別は、環境問題、資源問題などとも絡めながら、生徒、あるいは教員にも訴え続ける必要がある。